

体罰指導法の評価 —BSSC学生の実態調査—

野中 薫美 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：スポーツと暴力 体罰

1. はじめに

スポーツの経緯を概観すると、実はスポーツと暴力は密接に関係している。学校教育の中の部活動指導場面において、指導者から生徒への体罰指導が見られる。法の規制があるにも関わらず、なぜ体罰指導が公然と継続的に行われているのかを問題と捉え、その要因を明らかにし解決策を提示した。

2. 研究方法

スポーツの経緯及び体罰指導についての文献調査。インタビュー予備調査。アンケート調査：対象者（本学全学生 901/1333 名 回収率 68%）SPSS を用いて分析、検証。

3. 結果・考察

指導者タイプを PM 理論に依拠して、4 タイプ（放任・融和・専制・民主）に分け、時期別に検証した。図 1 に示したように、専制型が小・中・高と段階的に多くなっている。このことは、徐々に勝つことを重要視していく過程で指導者が生徒のパフォーマンスを無理に高めようとするのがうかがわれる。その際、特に高校の運動部活動場面において、体罰指導が多くあることが推察される。

体罰指導経験者の中で約半数、体罰指導非経験者の中でも約 2 割がポジティブに捉えている実態が明らかになった。また、そのことを図 2 に表した。これは、仮に体罰をポジティブと捉えている人が将来指導的立場に立った際、その指導を行ってしまう可能性を示唆している。

4. まとめ

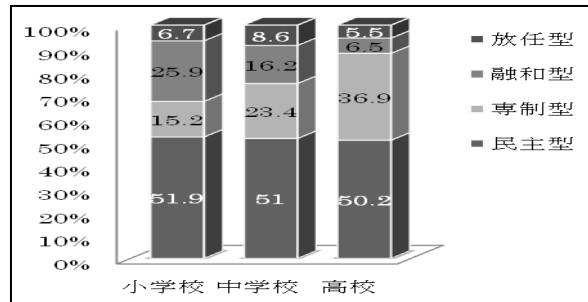


図 1 時期別指導者タイプ

本検証によって、体罰を伴った指導が再生産される可能性が確認された。このことを継続させないためには、指導者自身が真の指導力を身につけ、暴力に頼らない正しい指導法を学ばなければならない。

指導者の育成システムとして、サッカー界が一応の成功例を見せていることがうかがえる。これに倣い、他競技や学校体育現場でもその制度の見直しと拡充を追求していくべきであろう。

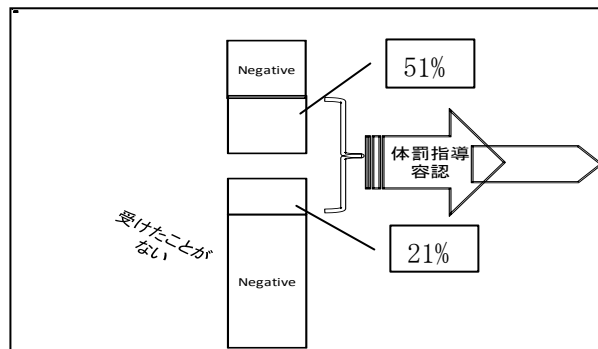


図 2 体罰指導再生産までのプロセス

参考文献

阿江 美恵子 (1990) 「スポーツ指導者の暴力的行為について」 東京女子体育大学紀要